

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ブライダル概論 Introduction to Bridal Business		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(ホテル・ブライダルユニット)	2年生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ホテル業概論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
観光ビジネス実務総論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤優子		水曜日		授業中に指示します
授業の概要				
ブライダルは人生最大のお祝いの儀式として、一般に慣習化してきたものである。最近ではブライダル産業の規模も拡大し、多様化している。ブライダルの意義、歴史、ブライダル関連産業、ブライダルサービスなどブライダルに関わる内容を全般的に学んでいく。				
授業の目標				
①ブライダルの定義を学習し、ブライダルの意義を修得することができる。 ②ブライダルの歴史、各国の婚礼事情に関する内容を修得することができる。 ③婚礼スタイルとその特徴を習得することができる。 ④ブライダル関連産業など基礎的な知識を身につけ、ウエディングプランナー、ブライダルコーディネーターの仕事の流れと役割の知識の構築をすることができる。				
授業の方法				
教科書を使用し、講義形式で進めていく。またパワーポイントやDVDなどのビジュアル資料を活用し、ブライダルビジネスに関する学習を促すことに努めていく。特にブライダルの基本的な知識確認はミニテストを実施する。そこで解答率が低いものは、ディスカッションをとりながら、知識構築に努める。さらにブライダルの現在抱える問題、課題点についてはクイズ形式で行い、学生の修得度合いを確認しながら進めていく。				
学習の成果（学習成果）				
①ブライダルの現状と将来におけるブライダル産業を考えることができる。 ②ブライダル産業には幅広い知識が求められるため、必要な基礎知識を構築することができる。 ③ブライダルスタイルが多様化されており、ウエディングプランナーの仕事に必要な応用力を修得することができる。 ④ブライダル業界は社会情勢により大きく変化するため、社会情勢の変化を常に感じ、その状況がどのような方向にいくのかを考えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ブライダルの定義			
第2回目	社会情勢 ブライダルの動き			
第3回目	ブライダル業界の現状と市場分析			
第4回目	求められるウエディング アンケートを基にして			
第5回目	ブライダルのスタイル			
第6回目	キリスト教式 神前式 仏前式 人前式			

第7回目	ブライダル産業
第8回目	ウエディングに関わる仕事
第9回目	ウエディングプランナー・ブライダルコーディネーター
第10回目	トラブル・クレームの事例
第11回目	披露宴の演出
第12回目	付帯サービス
第13回目	オリジナルウエディング
第14回目	海外ウエディング
第15回目	ブライダルビジネスの将来性

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業に集中し、ノートをとる。不明なことがあれば積極的に質問する。自分の意見を述べるなどが評価の対象となっている。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	20%	ブライダルについての課題を出す予定である。S評価の基準：課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。S=90-100
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	ブライダルの定義、社会情勢、ブライダル産業など詳細に学習していることが評価となる。S評価の基準：S=90-100
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

ブライダルビジネス入門（JTB総合研究所）

履修上の留意点・ルール

遅刻厳禁。私語は慎むこと。授業途中で無断で退出禁止。携帯電話の使用禁止。飲食厳禁。